

ぼくのゆめ

小 四

ぼくのおばあちゃんは、かた足しかありません。おばあちゃんが五才くらいのときの電車が原いで、かた足がなくなってしまったそうです。それからずっと「ぎ足」という、人を作ってもらった足をつけて生活していましたが、今は年をとって車いすで生活をしています。おばあちゃんのその話を、お母さんから聞いたとき、ぼくはとてもおどろきました。

おばあちゃんには、年に数回、会いに行きます。おばあちゃんは、会いに来たぼくを、いつも笑顔でむかえてく

れます。

「今、何年生だっけ？」

「今、学校でどんな勉強をしているの？」

「今、どんな食べ物が好き？」

など、ぼくと話をするのが好きです。

四年生になり、おばあちゃんが乗った車いすをおしているお母さんとお父さんを見て、ぼくも車いすをおしてみたい、と思うようになりました。初めておす車いす。初めてだからなのか、ずつしりと重く感じました。平らな道では、車いすをかんとたんにおせるのですが、坂道になるとおすのがとてもむずかしく感じました。上り坂は車いすがさらに重く感じるし、下り坂はスピードが出てしまっておすのがこわく感じました。

おばあちゃんにはコーヒを飲むのが好きです。だから、みんなで車いすをおして、近くのコンビニに買いに行きました。ぼくが歩くと二、三分で着くコンビニでしたが、おばあちゃんはふだん、自分一人では自由に行くことができないので、コンビニに着いたとき、とてもよろこんでいました。風が冷たい、寒い日だったので、温かいコーヒを少しずつおいしそうに飲んでいました。そんなおばあちゃんを見ると、ぼくの心も温かくなりました。

また、ぽかぽか気持ちのいい日に、近くの土手まで、おばあちゃんと散歩に行きました。でこぼこ道があり、車いすにしん動が伝わりました。しん動でたくさんゆれてしまうと、おばあ

ちゃんの具合が悪くなってしまうかもしれないので、いつもよりゆっくりと車いすをおしました。いつもは何も考えずに歩いている道でも、車いすをおすことで、でこぼこ道だったり、少し上り坂だったり、下り坂だったり、たくさんの発見がありました。

また、ぼくも車いすに乗ってみました。思い通りの速さで動けなくて、ぼくにはそうさがむずかしいなと感じました。外出するときには車いすを使っているおばあちゃんは、いつもこんなに大変な思いをしているのかな、と心配になりました。

ぼくは、これからの人生の中で、おばあちゃんのような車いすに乗っている人に会うことがあると思います。お

ばあちゃんは大変な思いをしているけれど、いつも笑顔です。町中で出会う車いすの人たちも、きつとつらい思いや大変な思いをしていることがあると思います。だから、町中で出会う場面があつたら、必要なときに声をかけて笑顔にできたらいいなと思います。

ぼくにはゆめがあります。それは、おばあちゃんに、きれいな「しばざくら」を見せることです。この前、家族で行ったA市のしばざくらです。しばざくらの公園は、土の道でしたが、少し広くて、車いすでも通れるくらいのはばがありました。歩いているとき、車いすの人を見かけました。ぼくはおばあちゃんのことを思い出しました。この道は坂道が少しあつて、車いすを

おすのは大変かもしれませんが、おばあちゃんを連れてきて、車いすを上手におしたいなと思いました。そしてなかなかお出かけできないおばあちゃんによるこんでもらいたいです。車いすをおしてきれいなお花を、みんなで笑顔で見ることがぼくのゆめです。